



「日本一身近な海づくり」事業が始まります

『海』の存在を再認識し、もっと身近に感じてもらうため、本年度から、海岸でのレクリエーションやビーチクリーン活動など、季節を問わず幅広い年代が気軽に楽しめる環境づくりに取り組みます。

1. 事業の必要性

旭市に住む私たちにとって、海はとても身近な存在で、そこにあることが当たり前のように感じているのではないのでしょうか。海水浴や花火大会で楽しむほか、1年を通して新鮮な魚介が食べられるなど、海がない地域に住む人にとっては、うらやまれるような恵まれた環境です。

しかし、海水浴シーズンが過ぎるとあまり人の姿が見られず、地域の重要な資源が生かしきれていません。

そのため、海や海岸が気軽に自由に楽しめる場であることを知ってもらうための、取り組みが必要です。

2. 事業の目的

- 参加した市民が、海の新たな楽しみ方や海岸地域の魅力を自ら発見し、旭市への愛着を深め「住み続けたい」と感じてもらうこと。
- 市外から参加した人が地域住民との交流を通じて、旭

の特産品や子育て支援などの生活環境に触れ、この地域に「住んでみたい」と感じてもらうこと。

- 参加者同士のつながりや活動の情報を、参加者から発信してもらうこと。

3. 海や海岸を活用した取り組み「ぼるぼる」が開始

「ぼるぼる」は、地域資源である海や海岸で遊びながら、自然を学び・守り、海を身近に感じながら暮らし続ける取り組み「Play(遊ぶ) Learn(学ぶ) Protect(守る) and Live(暮らす) with the Ocean(海)」にある5つのキーワードの頭文字「PLPLO」から名付けられました。

本年度は、9月25日(日)、10月23日(日)、11月27日(日)の3回で実施する予定です。

4. 主な活動

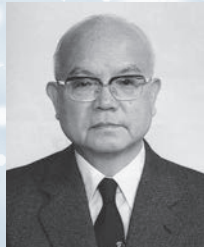
- 季節を問わず幅広い年代の人が楽しめるレクリエーション活動
- SDGsの目標「14. 海の豊かさを守る」を達成するためのビーチクリーン活動
- 海に関する教育活動
- 将来にわたって事業を継続・継承していくための、中心的な役割を担う人づくり

あさひ輝いた人々

第45回

旭中央病院創設の 功労者

もろはし よしお
諸橋 芳夫 (1919~2000年)



芳夫は、大正8(1919)年、新潟県古志郡四郎丸村(現長岡市)に生まれ、東京帝国大学(現東京大学)医学部を卒業したのちに、医師となりました。

昭和27(1952)年、友納武人千葉県副知事、鈴木三九一旭町長らの懇願を受けて、旭中央病院初代院長に就任しました。昭和28(1953)年には、医師8人と看護師ら45人により内科、外科、産婦人科、小児科の診療科を設けて開院しました。

しかし、戦後復興のまっただ中で、病院経営は順風満帆といえる状況ではなく、地元の反対運動、資金の問題、病院の2度の火災、中心地から離れていたことによる道路問題など、数々の難題が待ち受けていました。

しかし、芳夫は数々の困難を乗り越え、旭中央病院を全国有数の大病院にしました。私たち市民が健康な生活を送るために、旭中央病院はなくてはならないものです。

芳夫は「全ては患者のために」を信念とし、休むことなく患者のために率先垂範して「いつでも、早く、正しく、安く、親切な治療」の実施に努め、救急医療のための設備を整えたり、医師・看護師を病院の近くに住まわせたりしました。

医師には「一人の医師の存在価値は患者のために献身することであって、ただ金もうけをするような医師は当院にはいない」と断言していました。

また、全国自治体病院協議会会長、日本病院会会長を歴任、厚生大臣表彰、藍綬褒章、勲一等瑞宝章を受章し、昭和59(1984)年には、旭市の名誉市民となりました。



昭和28年の旭中央病院本館



現在の旭中央病院本館